

2023 年度 【 阪神南・尼崎 】 ブロック活動報告

(尼崎) 代表氏名 (藤原 真由美)

■活動目標

- | |
|--|
| 1. 訪問看護師の質の向上
①情報共有・交換の工夫を行い管理者間の交流を深め管理者のマネジメント能力を向上させる。
②教育ステーションと協働しスタッフ向け及び管理者向けの研修会を開催する。 |
| 2. 尼崎市の会議体への積極的な参加によるネットワークづくりの推進
①地域包括ケアシステムにおける訪問看護師の役割の明確化
②多職種間の連携を強化する。 |
| 3. 会員間の親睦を図り相互連携および組織力を強化する。
①新規ステーションへ入会説明を行い連絡協議会への加入を促進する。
②市内ステーション間の情報共有を行い、有事時の相互支援体制の構築を図る。 |

■活動内容

1. 定例連絡会 (管理者・役員会)

回	開催年月日	主な討議事項	出席者数
1	2023 年 5 月 25 日	新型コロナウイルス感染症 5 類に関する変化と今後の対応について、尼崎市福祉医療課から、災害検討委員より (BCP 策定に関する情報:ひな形の提示)、精神訪問看護についての制度の確認等、在宅でのハラスメントについて	32 名
2	2023 年 7 月 27 日	尼崎市教育委員会 特別支援教育担当との協議、小学校への医的ケア訪問、阪神南ブロック研修会についての相談、BCP 策定に対するアンケート結果および今後の課題、喀痰吸引指導検討委員よりマニュアルの改訂	35 名
3	2023 年 9 月 28 日	支部会費改定に関する現状の予算報告、喀痰吸引指導検討委員よりマニュアルの改訂案、医療的ケア検討委員 (新設) より現状の状況報告および課題	32 名
4	2023 年 11 月 16 日	BCP 策定にかかわるステーション連携体制について、連絡協議会安否確認を含むバイタルリンクの活用、連絡協議会交流会開催について、阪神南ブロック研修会報告	34 名
5	2024 年 1 月 25 日	BCP 策定にかかわるステーション連携体制について、地区別検討体制について提案、連絡協議会交流会開催について、研修会報告	37 名
6	2024 年 3 月 28 日	管理者交替ステーションの紹介、訪問看護連絡協議会交流会開催についての振り返り、BCP 策定にかかわるステーション連携体制について、研修会報告、小学校における医療的ケア支援についての報告、2024 年度診療報酬改定などに対する意見交換	33 名

2. 総会

日時	場所	報告・審議事項	参加者数
2023 年 8 月 31 日	ハイブリッド (立花南生涯プラザ)	2023 年度役員選出、2022 年度活動報告・会計報告、2023 年度活動計画案・収支予算案等	23 名 委任状 13 名

3. 研修会

1) ブロック独自研修

研修会名	開催年月日	場所	講師	参加者数
看取りケアとエンゼルケアの実際	2023 年 12 月 16 日	Web	東根聖子	22 名
認知症の人の家族支援と意思決定支援	2024 年 3 月 16 日	Web	中塚美貴	

2) その他研修会

研修会名	開催年月日	場所	講師	参加者数
阪神南ブロック研修会 訪問看護師が学ぶ臨床推論～認知症ケアに活かす～	2023年9月30日	Web	平原優美	74名

4. 交流会

開催年月日	場所	内容	参加者数
2024年2月3日	塚口ライクスホール	尼崎市訪問看護連絡協議会会員および尼崎市医師会との交流	81名

5. 地域の関連機関との連携及び会議等の出席に関する事項

会議名	開催年月日	場所	出席者氏名
尼崎市医療・介護連携協議会	2023年4月20日、5月25日、 6月22日、7月27日、8月24日、 9月28日、10月26日	Web	藤原真由美 福田和美 若松多美子 (9月まで) 畑中文江 (10月～)
尼崎市地域ケア会議（事前事後） アドバイザー会議	2023年9月21日、10月5日、 2024年1月18日、1月31日	中央北生涯学習プラザ	小野田直子
尼崎市地域ケア会議代表者会議 (各地区から代表)	2023年10月5日、2024年1月31日	中央北生涯学習プラザ 大ホール	小野田直子 大嶋明生 佐木田佳寿美 若松多美子 太田雅志 有坂恵
認知症サポートネットワーク	2023年8月7日、11月11日	Web、ライクスホール	佐木田佳寿美 國生千恵

6. その他の報告内容 なし

■活動の評価

<p>1. 新型コロナウイルス感染症が5類になり、会議開催等も参集ができるようになった。ハイブリッド会議を経て、参集も可能となったが、会員が増えるとともに会場選定などの問題が課題となってきている。昨年度からBCP災害委員を設置し、市内の全ステーションがBCP策定を完了できるように、連携方法などを含めて検討してきた。また、現在約50事業所の会員登録があるが、災害時の具体的な連携体制を構築するためにも地区別の集約体制の検討を始めている。</p> <p>2. 市立病院のない尼崎市では、今年度小学校に通う児童への医療的ケア支援のために市の教育委員会と協働し、連絡協議会の協定事業として「医的ケア支援委員会」を新たに設置し下半期の活動につなげてきた。現在、2校3人の児童に血糖測定・インシュリン注射、在宅酸素管理を目的に介入しているが、今後の増加が見込まれる医療的ケア児に対しどのように体制整備していくか、検討が必要である。</p> <p>3. ブロックの合同研修では、臨床推論をシリーズ化してきた。今年度は認知症をテーマにし、96名の参加申し込みがあったが、オンライン研修のための不具合や不参加などで74名の参加実績で終了した。下半期は教育ステーションと協議会委員との研修企画により2回の研修を開催。来年度は評価および学習者観に視点を向け、参加人数の拡大や質の担保に対応していきたい。</p>
